

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市市民センター	
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》	《貸室利用件数》
	令和4年度 2,103,436人（前年度比 131.7%） 令和3年度 1,596,920人 令和2年度 1,666,928人	令和4年度 142,730件（前年度比 129.0%） 令和3年度 110,686件 令和2年度 111,517件
5 収支の状況	《事業》	
	・施設の運営管理（施設の使用許可、使用料徴収含む） ・生涯学習事業	
6 利用者の声	《費用》	()は前年度決算額
	・指定管理者に支払った費用 2,014,815千円 (1,970,197千円) 施設管理分 1,429,360千円 (1,397,728千円) 生涯学習事業分 585,455千円 (572,469千円) ・その他市が負担した費用 28,824千円 (25,761千円) 施設管理分 25,242千円 (22,065千円) 生涯学習事業分 3,582千円 (3,696千円)	
6 利用者の声	《収入》	
	・使用料収入 146,991千円 (123,634千円) ・その他収入 6,601千円 (5,929千円)	
6 利用者の声	《実施状況》	
	・令和4年6月21日～7月24日の期間、市民センター利用者に窓口サービスアンケートを実施。 ・近隣地域団体・学校・関係機関や利用団体等の出席による事業運営懇話会を各市民センターで実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	市民センターが担うべき役割を職員自ら十分に理解している。 また、事業運営懇話会を各市民センターで開催して地域ニーズの把握に努めるとともに、アンケートや各市民センターに設置した「ご意見・ご要望」箱に寄せられる利用者意見も踏まえながら事業の改善に努め、市民センターの目指す「人づくり」「地域づくり」に取り組んだ。	30/30（60館）
II 施設の運営管理体制	協定書、仕様書等に基づき、適切な施設運営がされている。 令和4年7月13日及び16日に発生した大雨での対応については、所管課へ速やかに報告があり、その後の対応についても適切に行った。	30/30（60館）
III 施設・設備の維持管理	日常的な施設の点検・清掃に努め、不具合箇所の早期発見や修繕など、適切な維持管理を行った。	24/24（53館） 14/14（2館） 23/24、19/19、 12/12、11/11、4/4 （各1館）
IV サービスの質の向上	指定管理者が実施する内部研修のほか、生涯学習支援センターや宮城県等が主催する外部研修の受講を通して、職員の意識向上やスキルアップに取り組んだ。 また、窓口サービスアンケートや事業運営懇話会、「お茶っこサロン」等の開催を通じ、市民ニーズの把握及び地域との顔の見える関係を構築し、サービスの向上に取り組んだ。 施設利用者の事故やケガの対応も適切に行われているほか、コロナ禍にあっても事業を実施できるよう、感染拡大防止に継続して取り組み利用者に理解と協力を求めた。	28/28（59館） 26/26（1館）

V 施設固有の基準	施設使用許可、施設使用料徴収及び指定管理料以外の各種経費については、条例等の規定に基づき適切に行われた。	21/21 (43館)
	生涯学習事業については、大規模修繕による休館や新型コロナウイルス感染症の影響により事業の中止を余儀なくされた事業もあったが、概ね年度当初に計画した事業を実施することができた。地域の学習ニーズや課題を把握し講座等を企画・実施するとともに、市民のライフステージに応じた学習機会の提供や誰もが参加しやすい環境づくりに取り組んだ。また、市民による主体的で多様な活動が地域で展開されるよう、サークル活動・市民活動の支援を行うとともに、地域住民や団体同士をつなぐコーディネートにも意欲的に取り組んだ。	22/21 (7館) 23/21 (4館) 11/11 (3館) 24/21、20/21、10/10 (各1館)

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》	
●施設管理業務	<p>市民センターの利用状況は、利用件数が142,730件、利用人数が2,103,436人であった。大規模改修工事や福島県沖地震の影響による臨時休館等もあったが、新型コロナウイルス感染症による利用自粛は減り、利用件数、利用人数とも前年度より増加した。市民利用においても大きな事故もなく、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら、安心・安全な施設利用の提供ができた」と評価している。</p> <p>市民センターの運営について、窓口サービスアンケートでは、全ての項目において「良い」「まあ良い」の合計が99%以上の評価を得た。アンケートや懇話会等で利用者の意見の把握に努め、苦情等については、迅速な対応とともに全館で情報共有を行い、業務改善に生かした。また、市関係部局とも緊密に報告・連絡を行っており、施設運営は適切に進められたと評価している。</p>
●生涯学習事業	<p>生涯学習事業については、「仙台市市民センター事業要求水準書」の基本的事項を踏まえ、参加者が地域において主体的に活動し、学習成果を発揮できるようになることを意識し取り組んだ。Withコロナ時代として新たな段階に入中、感染の波を見極めつつ、感染防止対策を徹底のうえ、オンラインも活用しながら、市民の学びの支援に努めた。また、令和5年3月に開催した「市民センターフォーラム」では、SDGsの取り組み目標について理解を深める特別講演と、市民センターで実施したSDGsの事例発表や市民企画会議の取り組み内容を紹介し、市民センターにおける持続可能な社会に向けた学び等への取り組みについて広く市民に知っていただく機会となった。</p>
●その他	<p>令和4年7月13日及び16日の記録的な大雨発生の際は、市所管課等と密に連絡・調整を行いながら、指定避難所及び補助避難所運営等に取り組み、適切に安全管理が遂行できたと評価している。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>窓口サービスアンケートの結果が示すように施設利用者の評価は良好である。</p> <p>施設の維持管理については、各市民センターにおいて施設の状況に応じた管理や安全対策がなされている。また、令和4年7月に発生した記録的な大雨の際は、所管課と連絡・調整を行い、指定避難所及び補助避難所運営等に取り組むなど、施設管理者として安全管理に努め適切な運営がなされている。</p> <p>生涯学習事業の実施に関しては、大規模修繕による休館や新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止を余儀なくされた事業もあったが、要求水準書で定める講座等の企画数及び実施回数の「年間10事業、45回以上」を53館で達成し、全館平均では「年間12.6事業、55.5回」実施するなど、年度当初に計画した事業のほとんどを実施することができた。</p> <p>生涯学習事業の具体的な取り組みに関しては、コロナ禍による活動の縮小や交流機会の減少、少子高齢化による地域を支える人材不足など、地域を取り巻く環境に応じ、市民センターとして市民が自ら学び主体的な活動が継続して展開できるような働きかけを目標に取り組んでいる。学びを地域に活かす取り組みとして、市民センター事業を通じて歴史や伝統、自然や食文化等地域の魅力を学習した参加者が、その成果をイベントの企画・開催にて広く発信することで、学びを通じた人づくりや地域の活性化につながっている。また、市民センターを拠点とするボランティアやサークル活動の個々の課題に向き合い、支援を行うことで、参加者の増加や活動の活性化につながるほか、住民、地域団体、学校等とネットワークを構築して子育てや防犯に地域全体で取り組む意識の醸成をはかるなど、地域の人や団体をつなぐコーディネーターとしての役割も果たしている。さらに、事業運営懇話会や独自の取り組みである「お茶っこサロン」等を通じ地域住民や利用者のニーズの把握に努め、町内会との共催で出前講座の開催につながるなど、生涯学習の拠点、地域連携の拠点としての市民センター内外における多様な取り組みを行っていることは評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習支援センター、市民局地域政策課、各区中央市民センター